

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【原山小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	今年度の学力調査の結果からICTを積極的に活用している高学年ほど、知識・技能の定着が図られている傾向が明らかになった。来年度については、これまでの授業の改善に加え、低学年からの一層のICT活用、ICT環境の整備を進めていきたい。
思考・判断・表現	全国学力・学習状況調査、さいたま市学力・学習状況調査、共に、複数の情報を整理したり、比較したり、既習の知識と関連付けたりして考える力に課題が見られた。これらの力は、教科横断的に学校生活全体で培っていく必要があるため、学校課題研修を中心に学校全体で、課題に対して取り組んでいきたい。
主体的に学習に取り組む態度	数年前から「振り返り」については課題が見られたため、今年度は学校課題研修において「振り返り部」を設定し、積極的な改善に取り組んだ。実質、半年ほどの活動ながら校内アンケートでは振り返りに対する意識の向上が見られているので、活動を継続し、来年度の成果に期待したい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	さいたま市学習状況調査の国語・算数の「知識・技能」に関する領域においてR4年度はどの学年でもさいたま市の平均を越えた。今年度も引き続き、全学年の市平均以上の達成を目指す。	個別最適な視点から、高学年の教科担任制の長所を生かし、知識・技能に関する項目の集中的かつ丁寧な指導を実施する。また、ドリルパークやスタディサプリを活用し、個に応じた知識・技能の定着を図る。
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査の国語・算数の「思考・判断・表現」においてR4年度では学校単位での平均を越えた。しかし、項目ごとに見ると市の平均を下回る項目もあった。今年度は平均を下回った項目について分析を行なから、全学年での市平均以上の達成を目指す。	本校の研究主題「自ら考え、協働的に学ぶ児童の育成」を目指す上で、共同編集等のICTを活用することで他者の多様な考えに触れたり、自分の考えを表現したり、協働したりする経験を意図的、計画的に増やしていく。結果的に学習状況調査にも成果として現れるようにしたい。
主体的に学習に取り組む態度	学校課題研修の成果もあり、課題を捉えて授業に臨む姿勢は構築されているが、自分の意見を進んで発表する児童は少ないという課題がある。R5年度はさいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。また、学校評価児童アンケート項目「授業では自分から進んで発表しています」の肯定的回答を80%以上にする。	研究主題「自ら考え、協働的に学ぶ児童の育成」における3つのつなぐ力「課題を捉える力」、「自分の考えをもつ力」、「意見を比較・統合する力」の育成に今年度も継続して取り組む。また、研究3年目である今年度は次への課題を見出すために「振り返り」の意識も高められるような研修を計画する。

<小6・中3> (4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	知識・技能については、概ね市平均よりも高い結果となったものの、学年や教科で見ると市平均を下回るものもある。また、ICTを活用している高学年の方が知識・技能の定着度が高いことも今回の分析でわかってきたところである。	B
思考・判断・表現	思考・判断・表現については、学年によっては市平均よりも7ポイント高い項目もあるなど、学校課題研修で取り組んでいる「協働的な学び」の効果が発揮されている。同一集団の経年変化でも数値の上昇が見られるので3年間の継続した研修の成果も表れている。	A
主体的に学習に取り組む態度	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の肯定的回答は市平均よりも低く児童主体の学習活動を充実させていく必要がある。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	令和5年度全国学力・学習状況調査では、全国平均、市平均と比較しても概ね良好な結果であった。課題として、「知識・技能」において、漢字の送り仮名に関する問題や、敬語の正しい使い方等の基礎的な部分での正答率が全国平均、県平均共に下回っている。敬語の使い方に関する問題について解答類型を見てみると、敬語表現を知らない為に正答率が低いという原因もわかった。
思考・判断・表現	知識・技能と同様に、概ね良好な結果であった。しかし、複数の情報を整理したり、比較したり、既習の知識と関連付けたりして考える力に課題が見られた。国語では複数の資料をもとに自分の考えをまとめる問題、算数では具体的な数値が一部示されず、既習事項を用いて解答に迫る問題に課題が見られる。日々の授業を通して、物事を主体的に、深く考えられる児童を育てていく必要がある。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目では肯定的な回答が90%を越え、年度当初に設定した目標値を達成した。日々の授業改善に加え、学校としてICTの活用積極的に取り組み、児童一人ひとりの主体的な学びを後押しできたことが要因であると考えられる。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
小3	国語・算数共に市平均を2ポイント程下回っている。国語科の思考・判断・表現については、市平均と大きな変わりはない。しかし、知識・技能においては市平均を3ポイントほど下回っており、日々の学習の確実な定着を図る必要がある。対して算数は、知識・技能よりも思考・判断・表現の方が平均との差が大きく、学習したことを様々な問題でも活用する力に課題が見られた。
小4	国語・算数共に市平均を4ポイント上回っている。学年の実態として、積極的にICTを活用できており、CBT形式に強みが出せたとも考えられる。国語の思考・判断・表現は市平均より7ポイント高く、日々の授業での対話的な学習の成果が出ている。算数においても知識・技能、思考・判断・表現共に市平均を3ポイント以上、上回ることができているので成果をもとに更なる授業改善に励んでいく。
小5	国語・算数・社会については、市平均よりも4ポイント以上高い結果となった。特に国語と算数は同一集団の経年比較で見ても、知識・技能、思考・判断・表現ともに上昇しており、2年間の学習の成果が数値として表れている。理科については市平均よりも高いものの1ポイント程度にとどまっているので、国語・算数・社会の授業の成果をもとに更なる授業改善に励んでいく。
小6	国語・社会では市平均より3ポイント高い結果となっている。算数では1ポイント、理科では市平均より2ポイント低い結果となった。理科については、同一集団の経年比較で見ても、0.1ポイントであるが低下している。5年生においても理科には課題がみられているので、理科におけるICTの有効活用の模索など、積極的に授業改善を図っていく必要がある。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 全国学力・学習状況調査の結果から「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題が見られたため、ICTを有効活用して個々に知識の定着を図る。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 学校課題研修で「振り返り部」を新たに創設し、研究を進めているところであるので、学校全体で振り返りに関する意識を高めていく。

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【原山小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	クラウドに着目した研修に取り組み、ICTを活用した授業に多くの教員が取り組むことができていた。教職員全体の授業改善、学力向上への意識が醸成されてきていると言える。特に算数では、知識・技能の評価観点において全国平均、県平均、市平均等大きく上回るような成果も出ることができている。しかし、国語科、理科、社会科では算数ほどの伸びが見られないという課題もある。次年度では、今年度と同様に学校課題研修と連携し、まずは国語科での授業改善に積極的に取り組んでいき、学校全体の学力の底上げを図り、さらに伸ばしていきたいと考える。
思考・判断・表現	クラウドに着目した研修に取り組み、ICTを活用した授業に多くの教員が取り組むことができていた。教職員全体の授業改善、学力向上への意識が醸成されてきていると言える。令和6年度は、ICT活用に重きを置いてきたが、育てたい資質・能力が育みされていないという反省もある。次年度は、今年度培ったICT活用能力を教員、児童も発揮した上で、教科で身に付けさせるべき資質・能力にも目を向けた授業改善を進め、思考・判断・表現の力を育んでいきたい。

今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>ICTを活用している学年ほど習熟度が高い傾向があり、学年間に差が見られている。 <指導上の課題>ICT機器の操作や活用について教員間で差が大きくなってきている。	⇒ ・教員がICTを活用できるよう、ICT関連の校内研修を昨年度より多く設定する。 ・ドリルパークなどのアプリソフトに単独に頼るのではなく、普段の授業に必要性や必要感あるICT活用の授業プランを教員全体で検討していく。【45分授業中、15分は一人一台端末を使っているような状態を作る。】 研修や職員集会等の場を生かし、エンジェリストを中心にICT活用を得意とする教員のスキルを全体で共有し合えるようにする【学期に1回以上実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題>複数の情報を整理したり比較したり既習の知識と関連付けたりする力に課題がある。 <指導上の課題>思考・判断・表現の力は教科横断的に育成していく必要があるが、依然として教科毎に捉えがち傾向がみられる。	⇒ 学校課題研修と連携し、学校全体として課題意識を共有し、授業改善に取り組んでいく【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合90%以上達成】

全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
<小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	A	教員がICTを活用できるよう、研修内容を見直し、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」に基づく授業改善を進めた。年度当初に掲げた45分中、15分は一人一台端末を使っているような状態は達成できている。4年生以上の学年では児童が授業準備の時点で自然とタブレットを準備する様子も見られタブレットの普及使用が浸透した。また、中間期見直しで計画した学びのポイント「じ・し・ゃ・く」に基づく授業を各教員が実践し、見合うことも実行することができている。さらに、3学期には指導主事を招いての研究授業と協議会も行うことができた。その成果もあり、全国学力学習状況調査、さいたま市学習状況調査における知識・技能の評価観点では市の平均を上回ることができた。
思考・判断・表現	A	教員がICTを活用できるよう、研修内容を見直し、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」に基づく授業改善を進めた。ICT活用を推し進めた中で、教科の見方・考え方の大切さを学校全体で再確認することができた。教科の見方・考え方の様な普遍的に重要とされるものを追及していることで、教科横断的な視点も持つこともできている。また令和6年度さいたま市学習状況調査及び、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合が5年生で92.5%、6年生では93.4%と年度当初に掲げた目標を達成した。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語、算数共に県平均を上回っている。国語では正しい漢字を文の中で使う問題において課題が見られ、解答類型を見る「競技」の「読」の読みが3割以上になっていた。字形が複雑な漢字の習熟については学力の差が開いていると推測できる。ドリルパーク等を活用し、習熟度を高めていきたい。算数では速さの意味についてを問う問題の正答率が70%を下回っていた。解答類型を見てみると、道のりを表す図と、時間を表す図の違いに気付かず解答していることが誤答の主な原因となっている。丁寧に読み、思考すれば正答率が高まると思われる。問題文をよく読み、身に付けた知識・技能を適切に活かせるよう、指導の工夫・改善を図っていきたい。
思考・判断・表現	国語・算数共に全国平均・県平均と比べても高い結果となった。国語では、文部科学省から課題として挙げられていた「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」かどうかを見る問題に関しては平均と比べて12ポイント高い。算数においても「思考・判断・表現」を見る問題において平均より高い。「考えを書く」問題の学力が定着していることが明らかになり、日々の授業で「自分の考えをもつ」ことを大切にできた成果として捉えることができる。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	全体同年比較において、ほとんどの項目で市の平均を上回っている。知識・技能の評価観点で見ると、算数で、3年生が市平均を5ポイント以上上回っており、低学年での積み重ねが結果として表れている。6年生でも5ポイント以上高いことから、学校全体で算数の学力が向上していると言える。国語においてはも全学年で市平均を越えており、6年生では3ポイント程度高い結果となった。知識・技能においては日頃の授業改善の成果が出ており、次年度以降も続けていきたい。
思考・判断・表現	全体同年比較において、ほとんどの項目で市の平均を上回っている。思考・判断・表現の評価観点で見ると、算数は3ポイント以上の学年が3学年あり、知識・技能同様に算数の学力は向上してきている。一方、国語は、5年生において+2ポイントで一番高く、他の学年はほぼ市平均と同値に近い結果となり算数ほどの強みは出ていない。また6年生の「書く」領域は全国学力・学習状況調査で、高い成果を見出すことができていたが、さいたま市学習状況調査では市平均を下回っている。設問ごとの解答を詳細に見ると問題の後半になるほど無解答率が高くなる傾向が見られ、それが結果に反映しているとも考えられる。最後まで粘り強く取り組み「考え抜く姿勢」を身に付けられるように授業改善に取り組んで行く必要がある。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	教員がICTを活用できるよう、研修内容を見直し、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」に基づく授業改善を進めた。特にクラウドに着目した研修を多く行い、実際にICTを活用した授業が増えてきている。また、夏季には外部講師を招いてICT研修を行った。	年度当初に掲げた目標に加え、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」に基づく授業を各教員が実践し、見合う場を設定する。
思考・判断・表現	A	R6年度全国学力・学習状況調査質問紙調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が93%となった。学力調査の結果からも授業改善の成果が出てきているといえる。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)